

政治の名で公然ヘイト

日本第一党川崎で街宣

人種差別の言動を繰り返す極右政治団体・日本第一党によるヘイト街宣が7日、三たび川崎駅前で行われた。市民の抗議が高まる中、外国人の排斥をあおる旗が掲げられ、人種差別主義者らがマイクを手にスピーチ。政治活動に名を借りて公然と行われた人権侵害は約1時間半に及んだ。(石橋 学)

県警が設置した三重の鉄柵の内側、日の丸の隣で「外」と書かれた旗が打ち振られた。外国人を犯罪者集団であるかのように示し、追放を唱えるメッセージ。前回の「暴れるな朝鮮人」という横断幕に続くヘイトスピーチに「レイシストは帰れ」の怒声が増した。これまで最多の約300人が抗議したが、街宣は予定通り行われた。

第一党の街宣は6月、8月に続き3回目。この日も参加した最高顧問の瀬戸弘幸氏は市の人権条例制定の阻止を公言、ヘイトデモや街宣を重ねてきた。党首の桜井誠氏は被害を訴える在日コリアンを念頭に「条例を作った人間を木から必ずぶら下げる」と「虐殺宣言」。政治団体とは名ばかりの人種差別団体として存在自体が脅威となっている。



①在日コリアン3世の女の子が書いた「へいとすびちやめろ」のメッセージ。外国人排斥を唱える旗が振られた街宣に抗議する市民＝川崎駅東口



不条理いつまで憤る市民ら

「彼らが目の前にいる状況が耐えがたい」。美容室の帰りに遭遇してしまった在日3世の女性(25)は体を硬直させた。市内でヘイトデモが始まったのは2013年のこと。「ヘイトをしてきた人たちが政治活動を堂々とする異常さ。事態がどこまで悪化すれば歯止めがかかるのか」

差別を禁じ、罰する条例を求める市民団体「ヘイトスピーチを許さない」かわさき市民ネットワークが傍らで行った署名活動もヘイト対策の不備を浮き彫りにした。横浜市旭区の女性(55)は「行政が差別を防ぐどころか、柵に囲われ活動の舞台が確保されている」と憤った。

この不条理はいつまで続くのか。武蔵野市から駆け付けた女性(31)は小さな女の子を見かけて驚いた。地元のコリアン初級学校に通う1年生。いても立ってもいられなかったという在日2世の父親が「抗議する人たちが大勢いることも知ってほしい」と連れて来ていた。女性は少しでも気を紛らわせようと、持っていたホワイトボードでお絵かきに誘った。女の子は女性に「あの人たちは何をしているの」「やめろと言われてなんでやめないの」と尋ねると、覚えたての平仮名で書いた。

「へいとすびちやめろ」